はマラソン競走其他各種の競技をやり三時から更に行列を作つて本部中の島公園になだれ込んだ（十五日、大阪發）

警官が職工を無理無體に毆打

罷工團會旗を押收され　重輕傷者が十名

開會だ見物の群衆に交つて市内各署の正服巡査數十名の眼が光る十一時群衆の眞中に急拵へのビール箱の演壇が運ばれて總指揮役の勞働者は交々立つて熱烈なる演説を試み午後四時西尾友愛會主事東春日出支部長先頭を承はり造船工組合を眞先きに長蛇の陣を作つてワイショく～と中之島大電本社に押寄せた大電本社では万一を慮かり鐵扉を堅く鎖し窓と云ふ窓は悉く鎖して

鋼鐵板を 覆ひ周圍は警官の人垣を作つて嚴重に警戒の網を張り蟻一疋の這入る隙もない同所では瀾が上にも大聲を出しワイショく～と怒鳴りながら警官の注意に隨足にて通過し友愛會支部に引揚げ船津橋に差蒐つた際行列の中央から突如「安治川發電所に押寄せよ」との聲聞えると一同は

之に和し 引返して制止する西尾主事警官隊の聲も耳に入れず雪崩れを打つて安治川發電所に押寄せた此處も同じく警戒の手は嚴重に屆いて居たが一團は門前で勞働歌を高唱しながら其先頭は勢ひに乘じ警戒線を突破して門内に入り更に再び警官隊と衝突を起し熱し切つた一團が後より

石礫を飛 はし喊聲を上げて激しい市街戰が演ぜられ警官隊は遂に會旗を押收し西尾主事外廿餘名を引致し直に解散を命じたが此一團は容易に去らず門前で騷ぎ立て居た此衝突のみで重傷一輕傷九名を出した斯くて形勢益々險惡を極めたので警官は西尾主事を

放還して 一同に引上げ方を懇願した結果一同は勞働歌を高唱しつゝ福島の罷工團本部に引上げた警官中には職工を無理無體に毆打した者があつて怨嗟の聲が高く罷工團本部へ引上げたのは七時四十分で直に解散した（十五日、大阪發）

左手に赤紐

繰出した警官隊

警察部の保護警戒隊は連日大電職工の家庭を戸別訪問して保護警戒に當つて居るが更に十五日は示威運動の違反者を取締る爲め市内各署から刑事の動員を行ひ午前十一時第一班午後三時第二班各々六十名宛を一旦刑事課に集めて田中刑事課長から訓辭を與へた後池田警部武田警部を班長として出動さしたが他と分別する爲班長は全部赤の打紐を左手に捲付けて出動した

（上）大電罷職工へ手當や給料を支拂ふところ（並んでゐるのは首實驗役の委員）（下）待受けてゐる借金取り（十六日大電本社入口にて）

委任狀でも支拂ふ

餘り來る者が尠いので

十六日は大電で職工手當と給料支拂の爲同社の西門が朝の八時から開かれ門内には木柵を拵へて一人宛入る樣に造られ柵の内側には首實驗委員や復歸勸誘掛が目を光らして四五名並んで居る、九時から「印形持參の本人」に支拂ふ事になつて居るのに正午までに只十一人金額二千五百圓程を支拂ふたきりで不安げに西門から入つた連中も東門から出る時は流石に顏の括りが解けて見ゐる、委員達は皆手持不沙汰の有樣で欠伸を噛み殺して居る、門前から門内にかけて警官が數十名是も目を光らして出入する人の監視に忙しい、午後もやはりだれ氣味で相變らず來さうにも見ゐぬ、本社前には職工側の家族が形勢觀望といふ具合で積重ねた材木に腰かけて洞ケ峠を極めてゐる

借金取りも　門前で見張り

拔目のない商人は金を貰ふ職工を門前に擁して舊借金の催促をしやうとしてるものも多數あつた、通路の要衝には友愛會の連中らしい者が待つて居て本社へ行くものを小蔭に呼び入れる事もあり警察官はまた是等に對して極度の神經過敏の眼を光らす、復歸希望者と阻止運動者と警官側と三派三すくみの體である大電本社では今日受取人がないときは明日も引續いて支給するといふ事である、なほ會社としては受取人が殺到すべき事を豫期したが目算ガラリと外れたので此上は委任された人が確實な人格者である限りは委任狀によつて

調停の曙光見ゆ

「團體交渉難」の削減

十五日深更宮崎社長と昌取締役は田中警察部長を官舍に訪問して面談の後退去したが、會見の結果部長は表面には立たないが問題の第一條即ち團體交渉權の解釋を英國等に行はれてゐるもの即ち職工の任免等經營者の權限まで立入らず唯だ單純に問題毎に團體意志を發表させる程度のものと解釋しソレで罷工團が承認するならば個人として調停しても可いとの意嚮を洩らしたので宮崎社長は何分宜しくと挨拶したと傳へられてゐる

十六日

り十六日正午市内各署長を警察部長室に招集し各課長も出席し取締に關する署長會議を開き種々協議する所があつた、右に關し加々美特高課長は語る

十五日の勞働團の所業は怎う考へても勞働運動とは目されない立派な騷擾的行爲である自分は最初賀川氏の他昨夜團體會の幹部の來訪は市民のため萬一に備へるため厭起する事になつたといふ事を通知に來たまで、同會とは何等の關係もない、今日以後は晝夜間の別なく示威運動は絶對に認めない事になつた、もし禁止したのに拘らず進るやうな事があれば斷乎たる處置に出でる者へである

社會主義者動く

大電爭議の惡化を聞き付け此の機會に乘じて何等かの運動をなすために關西各地の社會主義者は續々大阪に集る模樣があり神戸の大西昌氏は十六日午前十一時來阪の際梅田驛に下車した所を直に曾根崎署に檢束され同時に在阪の三田村岡本兩氏も既に外出を禁止されたと傳へられてゐる、又東京の娘子團赤瀾會の一派に屬する伊藤野枝、堺眞柄、久住久子、松根定子等も借家人大會參加のため來阪すべしと傳へられてゐる尚ほ在阪の社會主義者三野啓逸、林忠義の兩氏も十六日午後二時若林町署に檢束され逸見氏も亦既に檢束された

罐詰解放

實情の調査

大電では復歸した兩發電所の職工を全部罐詰として一歩も外へ出さなかつたが十五日朝來春日出發電所のみは希望者には歸宅又は外出を許したので夫と聞いた友愛會並に罷工團では直に見張委員及び家庭訪問委員を増員して一々訪問せしめ復歸者の眞意を質し且つ會社が不都合にも刑事と稱し無理無體に拉し去つた事實の眞相に就いて調査して居る